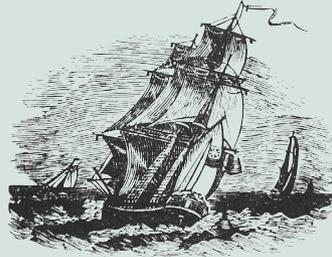


羅針盤



こんな私が羅針盤?? “こっそり” 書かせていただきます!

安部 正敏

Masatoshi Abe

群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学 講師

1995年元旦、私は“こっそり”内科医を演じていた。田舎の老人専門病院での一人ぼっちの年末年始の内科当直。紅白が終わるころ、3階に分かれたすべてのフロアで危篤患者が出た。階段を走りながら、処置とともに家族対応もしなければならない。患者同様初めて会う家族に……。

「今後は救命処置となります。いいですね○○さん!」「えっ?××ですが……」逃げるように下階へ! 今度は別の家族に小康状態

を伝えようとした矢先、「先生、故人も先生に看取って頂き、さぞ喜んで……」(えっ!まだご存命だけど……)ホウホウの体で下階の別の家族の見送りに行き、「死亡診断書を書く間にお迎えの手配を……」「先生、家が近いから、仏様をおぶって帰りますわ~」「……(絶句)」しかし、この間にも各階での処置はナースにより抜かりなく進んでいた。患者を前にただ恐縮するのみの新米皮膚科医には、そのプロの技がとても眩しかった。毎夜のごとく修羅場を経験している老人病院の鉄人ナースは、ヒヨッコ医師に圧倒的なスキルを見せつけ、笑顔で帰っていった。

近年、わが国では日本看護協会により資格認定制度が整備され、専門性の高い看護サービスが提供されるようになった。皮膚・排泄ケア認定看護師のcareに発する実践的な技術は、われわれのcureの視点に新たな展開を与える。皮膚疾患のプロたる皮膚科医であっても、看護師の工夫や患者の意外なOTCの活用法は時に目からウロコとなる。無論、それらはわれわれの厳しい評価に耐えうる事が前提であるが、患者の利益に繋がるスキ



ルであれば積極的に取り入れることで、他に真似のできない皮膚科診療を展開できる。ナースの技術は自ら行わずとも診療現場のスタッフに伝授できるし、OTCを積極的に使わずとも患者の質問に的確に答えることの重要性は明白であろう。そこで、今回はいまさら訊くのもためられる看護師の技術とOTC活用のコツを“こっそり”学べる特集を企画した。皮膚科に特化した看護を実践するエキスパートナース執筆の

各論を通じて、その卓越した技術と熱意を十分感じて頂きたい。また、OTCに関しては、第一線で多数の患者指導を実践中の若手皮膚科医の先生方に極意満載の解説をお願いした。さらに、診療形態が異なる施設でご活躍中の先生方6名に、独創的な診療の工夫を“こっそり”明かして頂いた。浅学非才なこの若輩者に、責任編集の榮をお与え頂いた編集委員長の大原先生、編集委員の塩原先生、松永先生、江藤先生、大槻先生、編集協力者であり私の上司である石川先生と執筆頂いた先生方、そして何より今から本号をお読みになる読者の先生方に心底より感謝申し上げる次第である。

2009年4月、私は“こっそり”秀潤社の須摩社長、本誌の川口・宇喜多両エディターと酒を飲んだ。3氏は今回の大役を前に恐れおののく私を励ましつつ、驚くほど膨大な皮膚科知識を熱く語った。全国数多のプロの皮膚科医に毎月挑戦するエキスパート編集部員は、ヒヨッコ責任編集者に圧倒的なスキルを見せつけ、日皮会総会の懇親会に集う大勢の挑戦相手の中へ笑顔で消えていった。